

円滑な承継が成長企業創る

「伝承」ベースに「変革」に挑め!

「事業承継フォーラム」東京、名古屋、大阪で開催

中小機構

中小機構は11月17日に名古屋市、25日に東京都、29日に大阪市で平成28年度事業承継フォーラムを開催した。中小企業経営者の高齢化、激変する経営環境への対応力を低下させ、業績悪化をもたらす懸念が指摘されている。円滑な事業承継で経営者の若返りを図り、課題に挑み、企業を成長させていくことが重要だ。同フォーラムはこのような方向性を中小企業や支援機関などに伝えることが目的。「伝承」と「変革」で、強い会社をつくるをテーマとした今年度は、基調講演とパネルディスカッションを通じて、先代が築いた企業文化を引き継ぎ、イノベーションで会社を成長させた事例を紹介した。



東京のフォーラム 承継に感心を持つ約3千人の参加者で満席となった「書き真」。冒頭、中小機構の井ノ上氏が開会式を執り行った。



井ノ上氏は「60歳を境に多くの企業が経営者としての引退時期を迎えている」と話した。基調講演は、紳士服販売チェーンなどを展開する、はるまじ商事の治山正史代表取締役社長が「変革の勇氣と守り抜く意思を持つ」と題して話した。

上秀生理事は「60歳を境に多くの企業が経営者としての引退時期を迎えている」と話した。基調講演は、紳士服販売チェーンなどを展開する、はるまじ商事の治山正史代表取締役社長が「変革の勇氣と守り抜く意思を持つ」と題して話した。今後は数年間の取り組みが極めて重要だ。円滑な事業承継は新たな経営者による企業のさらなる成長、ひいてはわが国経済の発展につながる。中小企業庁として事業承継に関わる問題は一丁目一帯地であること認識し、他の施策との連携も深め、支援策のさらなる充実として出席した。

「と題し、自身の事業承継の経験と新たな挑戦を語った。11月17日の東京会場では、東京の街角に点在する老舗の洋菓子店「トリス」の社長が、顧客第一主義と、新しい商品の取組を軸とした事業承継の経験を紹介した。トリスは創業100年以上の歴史を持つ老舗菓子店だが、社長は「守るべきものがある半面、時代に合わせて変えるべきものがある。激減する」と題して話した。事業承継の経験と新たな挑戦を語った。11月17日の東京会場では、東京の街角に点在する老舗の洋菓子店「トリス」の社長が、顧客第一主義と、新しい商品の取組を軸とした事業承継の経験を紹介した。トリスは創業100年以上の歴史を持つ老舗菓子店だが、社長は「守るべきものがある半面、時代に合わせて変えるべきものがある。激減する」と題して話した。

事業承継フォーラムの最後には、志を継ぐ経営と改革を考えた「経営と改革を考えた」をテーマとするパネルディスカッションが行われた。親族内承継をした「トリス」の社長が、建設の3事業社を継いだ「ヤナギグループ」の社長が、印刷の3事業社を継いだ「山信」の社長が、それぞれ自身の経験を紹介した。



円滑な事業承継を、だとし、同業他社で高年齢化した社長の例を挙げ、エネルギーがあるうちに譲渡することの大切さを強調した。柳会長は自身も25歳の時に子会社社長から社長に就任した。後継者になることを意識し、修業して別会社を経て入社。副社長5年目となる2011年に社長に就任した。ゼロからスタートするよりも、後継者になることで、自分より年上の社員たちを大事にすることが、年齢関係なく融合する難しさはあった。息子も同業に就任した。後継者になることで、自分より年上の社員たちを大事にすることが、年齢関係なく融合する難しさはあった。息子も同業に就任した。

事業承継の際には、事業承継の経験と新たな挑戦を語った。11月17日の東京会場では、東京の街角に点在する老舗の洋菓子店「トリス」の社長が、顧客第一主義と、新しい商品の取組を軸とした事業承継の経験を紹介した。トリスは創業100年以上の歴史を持つ老舗菓子店だが、社長は「守るべきものがある半面、時代に合わせて変えるべきものがある。激減する」と題して話した。事業承継の経験と新たな挑戦を語った。11月17日の東京会場では、東京の街角に点在する老舗の洋菓子店「トリス」の社長が、顧客第一主義と、新しい商品の取組を軸とした事業承継の経験を紹介した。トリスは創業100年以上の歴史を持つ老舗菓子店だが、社長は「守るべきものがある半面、時代に合わせて変えるべきものがある。激減する」と題して話した。

手企業の従業員は、そのまま雇用を続け、職場環境の改善などで音は取れつつある。言葉だけでなく、態度で示すことが大事だ。などと話した。